

質を示したり、逆に、光が粒子としてふるまうという、マクロの世界の常識では理解できないような現象がある。ヴィデオは、これらの現象を一つずつ実験しながら、粒子性と波動性の本質を理解させるという巧みな構成になっている。途中何回か、重要なところでヴィデオを止めて説明する。たしかにこのヴィデオはおもしろい。講義が終わったときの学生たちの満足そうな表情、苦労の甲斐があった。

▶ 5月22日(金)  
10:30 超伝導超大型衝突型加速器  
SSC(1999年の完成をめざしてテキサスに建設される周囲87kmの巨大装置)の実験を進めるために、ソレノイド検出器グループが発足している。ソレノイド検出器は、総重量30000トン、長さ40メートルという

巨大な測定器で、アメリカ、日本の二大グループに加えて、カナダ、インド、中国、韓国、ソ連などまさに世界各国の大学・研究所が協力して建設する。

来週から高エネルギー物理学研究所で、ソレノイド検出器グループの国際共同研究会議が開かれる。わたしの研究室で2年前博士号を取得してSSC研究所に就職した福井君が、この会議に出席するために帰国した。午前中、アメリカにおける加速器建設と検出器開発の現状を詳しく聞く。

16:00 今回の共同研究会議では、修士課程の近藤、増丸、山内の3人の学生が、検出器とソフトウェアに関する研究の成果を発表する。英語による発表ははじめての体験であるが、これから国際社会を担ってゆこうとする若い人にとってまたと

(ひろせたちしげ/東京都立大学)

## セミナー記

メガバイトもパンクすることは目に見えている。500メガバイト・ハードディスクでないと無理だ。今まではまともなことはできるわけがない。インテル80386/33MHzか、インテル80486/50MHzの機械が最低3機は欲しい。

日本のパソコンは米国内で低落の一途だ。このまま行くと日本国内市场でも危なくなる可能性がある。価格が高すぎるし、高いくせに性能が劣る。技術的にできないならまだしも、できるのにわざわざ低性能のものを作る。たとえば、もともとインテル80486は33MHzから出発したのに、日本でインテル80486機が出ると16MHzという低速になっている。なぜこんなことをやってのけるのか不可解だ。

多少技術に自信のあるユーザーは

危険を冒しても米国製や台湾製を買っててしまう。自動車や家電製品のように一度北米市場を制圧してからたたき出されるならまだしも、制圧もできないまま、逆に日本国内市场に攻め込まれ、制圧されるという事態が発生したらどうするのだろう。

▶ 5月29日(金)  
午後から御殿場で開かれるセミナーに、「ダウンサイ징とオープン・システム」のパネル・ディスカッションの司会は楽だった。

午前中の大学の講義を終えた後、新幹線の「こだま」に乗る。御殿場から差し回しの車に乗った。車の中で午前中行われた講演予稿を見せてもらうが、よくできているなあと感心する。各メーカーともオープン・システムについては、かなりの調査をやっているらしい。これでは私の

仕事がなくなってしまうと苦笑する。

会場について、司会だけやれば良いと勘違いしていたら、50分の講演をやるように言われてあせる。もっとも変だなあとと思って心の準備と資料だけは用意して来た。OHPシートを持って来なかつたのが残念だった。さすがにエグゼクティブのお客さんばかり集めてあるだけあって、発言は活発でパネル・ディスカッションの司会は楽だった。

ただオープン・システムの本当に意味していることと、現実はずいぶん離れていると痛感した。

今日は精神的疲労が激しく、帰りの新幹線では疲れて眠りこんでしまった。

(わきひでよ/東京電機大学)

## エレガントな解答をもとむ

出題○西山 豊・高木茂男

# PROBLEM

1

## 出題

$$\sum_{i=1}^n \frac{1}{a_i} = 1$$

ただし、 $a_i$  は自然数で、 $2 \leq a_1 < a_2 < \dots < a_n \leq 99$  とするとき、 $n$  が最大となる場合を求めよ。

例)

$$\frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \frac{1}{6} = 1$$

(西山 豊)

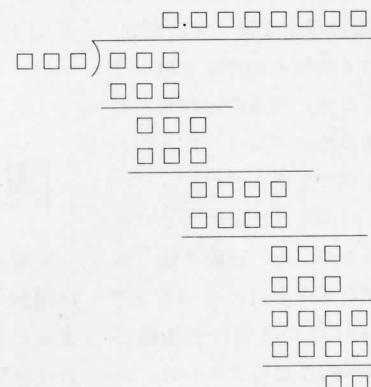
2

## 出題

□の中に適当な数字を入れて(ただし各数の最高位には0を入れない)式を完成させる問題が虫食い算です。その中でも数字がまったく出ていない問題を完全虫食い算と呼びます。下の問題はその一例です。

一見手のつけようがなさそうですが、実はこの問題には大きな手掛りがあって、それが見つかればそう苦しまずに解くことができます。

ひとつこの問題に挑戦してみてください。



(高木茂男)

### ●エレガントな解答をもとむ〈応募規定〉 解答11月号●

送先/〒170 東京都豊島区南大塚3-10-10

日本評論社 数学セミナー

〈エレガントな解答をもとむ〉係

締切/1992年8月10日

用紙/B5判のレポート用紙をご使用のうえ、解答

用紙一枚ごとに次のことを記入してください。

A: 問題の番号(例: 8月号問1)

B: 住所、氏名、年齢、職業

二間に応募される場合は、解答用紙を問題ごとにかけてください/コピーによる応募はご遠慮願います/誌上での仮名を希望される方は、その旨をB欄に明記してください/ご応募をお待ちしています。